



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



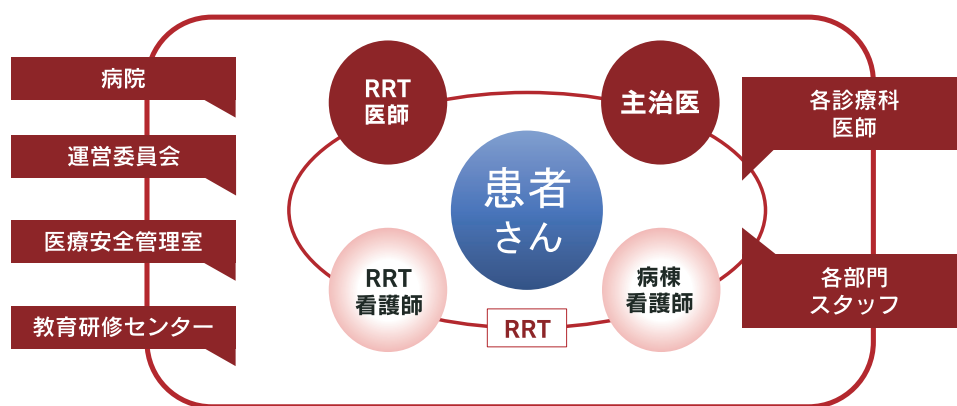
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

救命救急 センター

入院生活が安心・安全に送れるための取り組み ～ラピッドレスポンスチーム(RRT)の紹介～

大分県立病院では、患者さんの入院生活をより安心・安全にする取り組みとしてラピッドレスポンスチーム(RRT)を運用しています。



当院は県の中核的な役割をもつ急性期病院であり、各診療科に様々な疾患の患者さんが入院されています。良い経過であることを誰もが望むところですが、入院の契機となった疾患が予想以上に急速に悪化するということがあります。また、患者さんの中には動脈硬化や免疫不全などのリスクをもった方も多く、時には重篤な感染症や心血管疾患・気道のトラブル等、入院の契機となった疾患以外の要因で急速な病態悪化を示しそれが生命に関わる場合もあります。

そのような患者さんの急変の徴候を、呼吸や意識、循環のサインの変化から早期にとらえ早期に介入してさらなる悪化を防ごうと活動するのがRRTです。RRTは救命救急センター及び集中治療室(ICU)の医師、看護師で構成されており、病棟からチームにコールがかかれば早急にかかけ、主治医とチームが一緒になって診療にあたり、さらなる状態の悪化を防ぎます。主治医だけでなく、院内全体で患者さんの状態悪化に対応していこうという医療安全を目的とした取り組みです。

また、このチームの活動を通じて収集した情報については、個々の症例における改善点を検討したり、医療安全管理室と連携して個人が特定できないよう匿名化した上で院内スタッフの教育や研修のために活用します。そして病院全体で医療や看護の質、医療安全の質を高めていくという循環を作っていきたいと考えております。

入院生活は患者さんやご家族にとって不安なことも多いと思いますが、このようなチームも一緒になって皆さんの入院生活を支えていきます。

(救命救急センター 副部長 塩穴 恵理子)

放射線科

放射線治療についてのご紹介

放射線科の診療には、画像診断（CT、MRI、核医学検査等）、IVR（interventional radiology：血管内治療、各種ドレナージ等）、そして放射線治療（がんへの放射線照射による治療）の3つがあります。今回は放射線治療についてご紹介いたします。

放射線治療の機械は近年、進歩しており、体への負担が少ない治療として放射線治療が注目されています。

県立病院での放射線治療件数は年々増加しており（図1）、県内では最大の件数となっています。当院では高精度な放射線治療として強度変調放射線治療を積極的に行っています。強度変調放射線治療とは、放射線ビームの強度をコンピューター技術で最適化することにより、がんにはしっかり照射し、がんの周りの臓器の照射線量を少なくする（＝副作用を減らす）ことができる治療です（図2）。前立腺がんや咽頭・喉頭がん等がよい適応ですが、その他のがんについても適応を判断して強度変調放射線治療を行っています。当院での強度変調放射線治療の件数は年々増加しています（図1）。

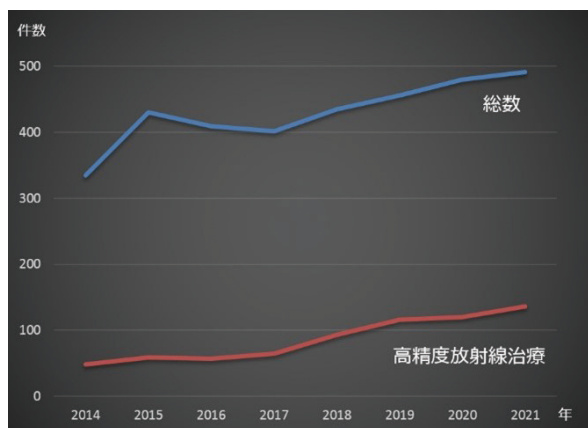


図1 年間治療件数

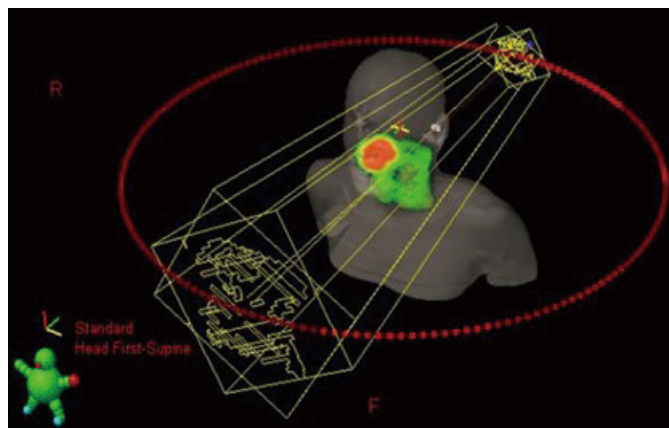


図2 強度変調放射線治療の一例

各種の専門資格を有するスタッフが協力して治療を行っています。ペイシェント・ファースト（患者第一）の精神で、真摯に治療に取り組んでいます。放射線治療は長い治療期間（数週～7週間）、毎日行います。患者さんにストレスなく治療が完遂できるよう、親身なサポートを心がけています。また、待ち時間を減らす工夫や、支払い方法の簡略化等も実施しています。

画像診断、IVRにつきましても県の基幹病院として専門性の高い、高度な診療を行っています。県民の皆様にも良質な医療を提供できるよう、放射線科のスタッフ一同、戮力協心して頑張っています。

（放射線科 副部長 放射線治療専門医 板谷 貴好）



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら